

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

定時制の課程である特性を生かし、地域の教育コミュニティへの参画と活性化を図り、自他の権利や生命を大切にすることをはぐくみ、安全で安心な学びの場を提供する。また、夢や志を抱き、人生を切り拓くチカラを育成する

- 1 生涯にわたって豊かな生活を築くため、「知識・技能」を修得し、「思考力・判断力・表現力」をはぐくみ、個々のニーズに応じた教育を展開する
- 2 自己肯定感、自他を思いやる人間性を育成し、互いに違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する
- 3 地域社会に貢献できる多様な人材を、様々な体験的活動や外部人材の活用を通じ育成する

2 中期的目標

1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現

- (1) 「グローバル化」や「情報化」など社会の変化に対応した学習の形態を実施し、生徒の能力・適性・興味・関心に応じた授業展開を行う。
- (2) 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむため、生徒の実態に合わせた体験活動や ICT 等の活用により「主体的・対話的で深い学び」の実践をめざす。
- (3) 多様な生徒に対する進路選択のサポートを強化し、3年間をベースとしたキャリア教育の計画を明確にして充実を図る。
- (4) 「生徒が来たい学校づくり」をめざし、欠席・遅刻等の改善をめざす。

《成果指標：全出席率の増加 H30:44.9%、H31:49.0%、2020:52.0% 2021:55.0%》（参考：遅刻・早退を含む出席率 H30:72.6%）

2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進（生徒自らが活気ある学校生活を送る。）

- (1) 互いに違いを認め合う共生社会の推進に積極的に取り組み、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。
- (2) 学校生活全般の活性化を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓くチカラを育成する。
- (3) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける。
- (4) SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）や SC（スクールカウンセラー）等の活用を通じ、生徒を主役に家庭・地域・外部機関との連携を図る。

※「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、2019年度までに文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の11.3%以下を維持し、更なる低下を目指す。

（中期的目標1～4の全てを通じて）《指標 H30:13.8%、H31:11.0% 2020:10.0% 2021:9.0%》

3 教職員人材育成と学校運営体制の再構築

- (1) 教職員の人材育成をベースに、チームワーク・ネットワーク等を駆使し「めざす学校像や目標の達成」に取り組む。
- (2) 教職員の同僚性を向上し、業務の効率化を見直し「ミドルアップ・ダウン型」の組織作りとミドルリーダーの育成
- (3) 各種委員会の再編と活性化を行い、必要に応じ役割を明示・円滑な校務運営を推進する。

《「働き方改革」の取り組みとともに、「将来構想委員会」による校務運営体制のチェックおよび各種委員会の再編と活性化を行う。》

4 開かれた学校づくりのための取組みを推進する。

- (1) 地域との連携や地元中学校および保護者等への広報に努める（Webの活用等を工夫）。
- (2) 地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める。
- (3) キャリア教育の充実と外部人材（キャリアコンサルタント）や協力企業等を活用し、生徒の視野を広げ、希望する進路が実現されるように支援する。
- (4) 生徒の多用なニーズに合わせ、進路実現については様々な機関との連携を活用してキャリア教育を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】 ・「学校の授業はわかりやすく楽しい」の項目で、66.7%の生徒が肯定的に答えている。昨年度に比べ20.4%増加しており、この傾向を維持できるよう努める。</p> <p>【生徒指導】 ・「きまりや校則を守っている」の項目について、生徒・保護者とも75%以上が肯定的に回答している。また、教員の指導や学校の指導方針に肯定的な回答が生徒・保護者とも65%以上あり、昨年度に比べ増加しており、教員の寄り添う教育の成果が現れている。 ・部活動に関しては、活発でないという意見が、生徒52.1%、教員66.7%と否定的な意見が多く重要な課題と考える。 ・「悩みや相談に親身になって対応してくれる」の項目についての肯定的な回答が、生徒70.2%、保護者75.1%と高い。SSW、SCの活用が有効に機能していると考えられる。</p> <p>【学校運営等】 ・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」の項目で肯定的な回答が50.0%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の項目で肯定的な回答も50.0%であった。教員個々の努力だけでなく、チームとして教育活動を行う意識の醸成が必要である。</p>	<p>第1回：7月5日（金） ・生徒が資格取得に関して取り組む意識が低いのでは。高めていくための学校側の対策が必要である。 ・ホームページについてブログ形式で新しく更新したことが分かりにくいので、分かりやすくしてほしい。見出し等を作ってみてはどうか。 ・退学率がH29年度よりH30年度が上がっている。在籍数が減ったことは分かるが今後0に近づけてほしい。</p> <p>第2回：10月31日（木） ・小中学校時に不登校だった生徒が登校できるようになった。多人数の環境から少人数の環境に変化したり、生徒の多くが他人に対する好奇心が少なく、人の目が気にならない環境が心地よいことなど理由はあげられるが、少人数のクラス編成や、授業に2人入るなどより丁寧な支援を行ってほしい。 ・工業科の取組み「陶芸教室」については非常に良い取組みなのでこれからも何らかの形で行っていきけるよう努力してほしい。 ・市役所等との連携ケース会議の取組みについて、これからも各機関と連携を取り合っケース会議等を行ってほしい。 ・避難訓練において、火災だけではなく南海地震等による津波に対応した建物(校舎)を使った縦方向の避難を行ってほしい。 ・1年次の出席率は良いが4年次の出席率はあまり良くないので、アルバイトや仕事による欠席、遅刻等あると思われるが4年生の出席率を上げるように努力してほしい。</p>

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

	<p>第3回：1月31日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒への指導・支援を充実させるため、門当番を廃止したとのことだが、外部からの不審者の侵入を防ぐ方法を考えてほしい。 ・部活動の活性化を考えてほしい。 ・SSWを中心に保護者会を持ち、保護者同士の連携や保護者の悩みの解消を行ってほしい。 ・危機管理マニュアルはあるが、それを教員が熟知して行動できるように訓練等の充実を図ってほしい。 ・「令和2年度 学校経営計画及び学校評価」の基本的な方針について承認。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現	<p>(1)能力・適性・興味・関心に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実践</p> <p>(2)進路選択のサポートを通じたキャリア教育の充実</p> <p>(3)「生徒が来たい学校づくり」と欠席・遅刻等の改善</p>	<p>(1)・基礎学力向上にむけ「～ができる授業」を実践し、A Lの手法や体験的活動など、生徒の興味・関心を高める授業展開を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性を理解し、生徒に寄り添った指導で、生徒の自己肯定感をはぐくむ。 <p>(2)・生徒のニーズに応じた教科科目の選択や受講指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職・就業指導の充実のため、公共職業安定所等との連携や企業訪問による就職先の開拓を実施する。 ・ハローワークをはじめ、外部の各種機関を活用し、生徒のキャリア形成の視野を広げる。 ・あらゆる「出会い」を通じて、入学から卒業までを通じて、卒業後も有用なキャリア教育の充実を図る。 <p>(3)・保護者との連絡体制・連携の充実を続け、課題の早期の対応を心がける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時に生徒面談を行い細やかな対応を図る。 ・「校内会議」「校内ケース会議」を活用し、組織として生徒情報共有・生徒支援を図る。 	<p>(1)・公開授業・研究授業を重ね、互いの授業改善の工夫を行う（年3回以上）。</p> <p>(2)・キャリア支援のための生徒の活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募前職場見学会や企業訪問を積極的に実施（就職希望者の100%） ・進路決定率を前年度比2%増（H30年度末96.6%） <p>(3)・生徒・保護者への電話連絡・家庭訪問等を組織対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率を前年度維持（H30年度末72.6%） ・遅刻・早退率の2%減少（H30年度末27.1%） 	<p>(1)11月18日～11月22日にかけて学校公開週間で公開授業を実施。授業見学に中学校教員9名参加。またインターメディアイトセミナー受講教員2名による研究授業を2回ずつ行った。（◎）</p> <p>(2)・応募前職場見学会や企業訪問を実施（就職希望者の100%）（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率（66.7%）（△） <p>(3)・担任による連絡はもとより、生徒サポートチームを中心に、対応が困難な事案にも対応できた。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の出席率74.7%（◎） ・遅刻・早退率26.4%（△） <p style="text-align: right;">(R1年度末)</p>
2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進	<p>(1)円滑な人間関係を築くためのマナーや規範、人権意識の向上</p> <p>(2)安全安心な学校環境の整備と多様な学びの場を提供</p> <p>3)生徒会活動・部活動の活性化</p>	<p>(1)・校門前の「あいさつ運動」の継続と、授業の開始・終了の「起立・礼」を励行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な差別事象や人権問題について正しい理解を深め、関係機関や専門家と連携し「豊かでたくましい人間性」をはぐくむ。 ・薬物乱用防止教室、交通安全教育などは、具体的・体験的な内容を充実させ、生徒の「主体的に行動する態度」をはぐくむ。 ・情報機器等の適切な使用マナーをはぐくむ。 <p>(2)・正門前の緑化と冬季のイルミネーションでの生徒の迎え入れの継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動場所の照度点検と安全な作業のための環境整備を継続する。 ・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、SSW・SCを活用した校内体制の充実を図り、個々の教員とも連携して、子ども家庭センターや市町村関係部局をはじめ地域の組織との協働を充実させながら、安全・安心な学びの場づくりをめざす。 ・「いじめ」の対応についても上の校内体制で実施する。 <p>(3)・生徒会活動やクラブ活動のさらなる活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の教育支援に関わる人材の活用を図る。 ・生徒会活動を通じ、学校の中核となる生徒を育成する。 ・文化祭等の学校行事へ保護者等にサポーターとして参画を促す。 <p>(4)・災害時の備蓄の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄保管用の施設の整備をする。 	<p>(1)・授業環境の改善を年間の授業観察を通じ指導・助言する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問で肯定的な回答率3%向上（H30年度は45.3%） <p>(2)・学校薬剤師・産業医とも連携して設備の安全状況把握等に努め施設改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校内ケース会議」等のさらなる充実(年10回以上)とあわせて「いじめ」対応の体制を継続する。 ・地域の支援組織等との連携、保護者の協力による家庭環境の充実で中退防止・進路実現を図る活動を行う。 <p>(3)・部活動参加者の維持（H30年度のべ58名/在籍93名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の清掃等、地域との活動を充実（年5回） ・文化祭等での生徒の主体的活動の増加と保護者の参加者数の増加（H30年度 外部からの参加者65名 内保護者31名） <p>(4)・校内の備蓄場所の整備および水などの備蓄を進める。</p>	<p>(1)・定期的に授業観察を行い、指導・助言を行った。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する設問の肯定的回答は75.0%で29.7%増（◎） <p>(2)・学校薬剤師・産業医と連携し、施設の危険箇所を確認し、必要な措置を行った。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSW・SCを交え、校内会議8回、ケース会議を4回実施した。（◎） <p>(3)・部活動参加者の維持（△）（H31年度のべ34名/在籍88名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の清掃は天候不良により、3回しかできなかった。（△） ・生徒会が主体となって文化祭を実施でき、参加者数も増加した。（H31年度外部からの参加者数92名内保護者60名）（◎） <p>(4)・水の備蓄本数：在籍人数×2本 備蓄完了（◎）</p>

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

<p>3 人材育成と学校運営体制の再構築</p>	<p>(1) 開かれた学校づくりをめざした取組み</p> <p>(2) 「ものづくり体験学習」・オープンキャンパス等を通じた人材育成</p>	<p>(1) ・秋季発表大会・産業教育フェア等への積極的参加を教員全体で取組み、教育活動の成果を地域に広報する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺地域の清掃活動を継続する。 ・文化祭等の学校行事への近隣住民・中学校教員を招き、学校の状況を知らせ、意見を今後の学校運営に資する ・保護者の学校活動への参加を推進する。 <p>(2) ・夏季休業期間を利用して地域の児童・生徒、保護者・小中学校教員対象の「ものづくり体験学習」を全日制教員と定時制教員の協力で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季学校説明会を「ものづくり」を主体に全員で実施 ・研修および研究授業の充実で「学び続ける教員」を育成する。 ・普通科、工業科の教員のさらなる連携を図り、全校一斉退庁日なども活用して、業務の効率化を「安全衛生委員会」「将来構想委員会」等で構築する。あわせて、産業医の助言も活用し、「働き方改革」にむけて取り組む。 	<p>(1) ・様々なイベントでの生徒参加を充実させ、学校 Web 等で情報発信を行い中学校へアピールする。(月 1 回更新)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭等の学校行事への外部参加数の維持 (H30 年度のべ 87 人) ・「ものづくり体験教室」参加者数の維持(H30 年度 40 名) ・冬季学校説明会参加者を増加させる。(H30 年度 8 名) ・学校自己診断の回答率を 5%増加させる。 <p>(2) ・同僚性を向上し、互いに切磋琢磨する職場をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁等を周知徹底し働き方に対する自覚を促す。 	<p>(1) ・秋季発表大会・産業教育フェアに参加。今年度は、産業教育フェアで生徒による陶芸の実演を行った。また、エコデンレースの大会役員として大会運営に寄与した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ウェブサイトによる情報発信を月 2 回程度実施した。(◎) ・文化祭等の学校行事への外部参加数 (H31 年度のべ 92 名) ・「ものづくり体験教室」参加者数 (H31 年度 30 名) (△) ・冬季学校説明会参加者数 (H31 年度 10 名) (◎) ・学校自己診断の回答率 (H30 年度 9.7%→H31 年度 17.6% 7.9% 増加) (◎) <p>(2) ・ストレスチェック結果によると、同僚のサポート指数が 0.4 増加。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁等を徹底し、特に問題となる時間外労働はなかった。(◎)
------------------------------	--	---	--	---